



ジェレミー・エックスタイン
Jeremy Eckstein
2015年8月から国際交流員として、
浦添市役所国際交流課に配置される。
米国フィラデルフィア出身
原文・和訳:ジェレミー・エックスタイン

クリスマスタイム=家族タイム

今月は、私がクリスマスをどうやって過ごしているかをお伝えしたいと思います。簡単に言えば、私は家族と一緒に過ごします。特にお伝えしたいのは、普通のクリスマスとちょっと違う「エックスタイン家のクリスマス」についてお話しします。

クリスマスは宗教との関係があるため、25日の朝に教会にお祈りに行く人が多いです。その後、家に帰って家族全員が集まり、一緒にプレゼント交換をしたり、いつもより豪華な夕ご飯を食べたりします。しかし、教会などに行かず、家族で集まってファミリータイムを過ごす人もいます。私の家族もそうです。

まず、誰の家に集まるかを決めます。子供のころは私の家に集まりましたが、従妹の2人が生まれてからは、おじさんとおばさんの家に集まることになりました。クリスマスの25日午後3時くらいに集まり、夕ご飯ができるまで遊んだり、喋ったり、飲んだりします。そして、夕ご飯ができあがったら、料理した人が小さい鐘を鳴らしながら「soup's on!」(ご飯ですよ〜!)と大きい声で知らせます。美味しい手作りご飯を食べながら、お喋りしますが、家族と話をすると必ず真剣な話題になってしまいます。今年のクリスマスで、難民受け入れ問題や銃規制などの難しい話題について話し合うかもしれません。

美味しい夕ご飯を食べ、少し休息したら、デザートの日になります。おじさんは自分でデザートを作り、おばあさんはお茶やコーヒーに詳しいので、いつもおばあさんと同じお茶やコーヒーを飲みながらデザートを食べます。デザートの日が終わったら、もちろんプレゼント交換をしますが、私の家族はプレゼント交換をあまり強調しないで、一緒にいることを大切にします。

自宅に帰る時は、幸せな気持ちでいっぱいになります。お腹もいっぱいなので、ぐっすり眠ってしまい、いい夢を見ます。去年のクリスマスは沖縄で過ごしたので、家族に会えなくて少し寂しかったけど、今年は里帰りしますので、家族と過ごすのが楽しみです!

Christmas Time is Family Time

This month, I'd like to tell you a little bit about what I do at Christmas. To put it simply, I spend it with my family. In particular though, I want to tell you about how my family's "Eckstein Christmas" is a bit different from a "normal" Christmas.

Because Christmas is a religious holiday, there are many people who spend the morning of the 25th in church, and afterwards go home to spend time with their families, opening presents and having a more extravagant dinner than usual. Of course there are also people who do all of the above without going to church, including my family.

My family first decides at whose house we will do Christmas. When I was younger, our family would always gather at my house, but after my two cousins were born, we started doing Christmas at my Aunt and Uncle's house. On Christmas Day, we all arrive at their house at around 3 in the afternoon and hang out, talk and drink until dinner is ready. Then, when all the food is cooked, whoever made dinner yells out, "Soup's on!" while ringing a small bell to let everyone know. While we're eating, we talk even more. But whenever my family gets to talking, we always end up discussing some pretty serious topics. At this year's Christmas, we'll probably end up talking about the refugee crisis or gun laws or something like that.

After eating, we take a little break before dessert. While we're eating the dessert that my Uncle has made himself, I always have the same tea or coffee as my Grandmom who is somewhat of an aficionado. Then, after dessert, we exchange gifts. My family however prefers not to emphasize this part of the day and chooses to focus more on the importance of being together.

On the way back home, I am usually filled up with good feelings and delicious food, which makes it easy to go right to sleep and usually leads to some good dreams. Last year, I spent Christmas in Okinawa and it was a little bit sad to spend the holidays away from my family. This year though, I'm headed back home for Christmas, and I am very excited to see my family!

ハイサイ こちら市長室!

「世界のウラシーンチュ」

第6回世界のウチナーンチュ大会の開会式を終えてセルラースタジアム前から浦添行き56番のバスに乗ると、多くの開会式参加者が後から興奮冷めやらぬまま乗り込んで来た。聞けば、やっぱり浦添出身のウラシーンチュ。私が市長と知るとみんなで記念写真を撮り合い、島くとうばでおしゃべりも盛り上がり、いつものバスとは違う、まるで学生を乗せた遠足バスのような楽しい雰囲気です。浦添まで乗り合わせた。「やっぱりオキナワ、サイコー!」「ウチナーンチュ万歳!」声高に叫ぶ彼らを前に、私の中のウチナーンチュDNAを再認識したのだった。

浦添市でも、海外からのウラシーンチュの歓迎式が開催された。「ありがとう」「オブリガード」「サンキュー」「ブラシアス」「マハロ」「ニフエーデービル」いくつもの言葉が飛び交う会場で、まるで全員が巨大な親戚一族かのような不思議な一体感に包まれながら、僕らは一緒に力チャージを踊っていた。



浦添市長 松本哲治

風景を必死に目に焼き付け、自らを励ましながらの出航だったに違いはない。そんな幾多の苦難を乗り越えた彼らやその子孫たちが、大会参加を理由に沖縄に帰ってきてくれたのだ。次は僕らが世界に届けて行きたいと思う。彼らの足跡を追い、彼らが根を張る大地の匂いを嗅ぎ、彼らが力強く生きていく異国の風に吹かれてみたいと思ってしまうのだ。

大会最終日、私たちは固くハグして別れた。また5年後のウチナーンチュ大会でお待ちしていますとの意味を込めて、「さよなら」の代わりに「行ってらっしゃい」で見送った。

問い合わせ
秘書課 ☎(876) 1234
(内線2563)

文化課発信 うらしーありんくりん 第21回

～ 浦添御殿の墓の話 ～

今回は、沢岬にある浦添家の墓「浦添御殿の墓」を紹介します。「御殿」という言葉でピンとくる方もいらっしゃるかもしれませんが、その呼称の通り、浦添家は国王と繋がりがありません。

浦添御殿は第二尚氏第14代国王である高穆王の次男・朝央を祖とする家系であり、代々浦添を領地としていました。浦添御殿は国王の摂政を務めた朝央をはじめ、政治家や文化人を輩出した名のある家柄でもあります。

浦添御殿の墓は東西20m、南北27mの石垣に囲まれた亀甲墓であり、市内最大級の規模を誇ります。広々とした墓庭にはヒンプンがあり、墓正面の巨大なカガミ石は琉球国時代の石材加工技術の高さを示しています。墓を囲む石垣は相方積みで積まれ、隅には反りを持たせた隅頭石を用いた造りとなっています。

近世琉球を代表する人物が出た家の墓であり、高度な技術によって造られた浦添御殿の墓は、平成20年に市の文化財として指定されています。ちなみに、戦前の航空写真には浦添御殿の墓を管理する御墓番の屋敷も確認できます。管理人が付いていた程ですから、やはり特別な墓だったのでしょう。



浦添御殿の墓



※訂正とお詫び…「うらしーありんくりん」の回数が、10月号が「第18回」、11月号が「第19回」となっておりましたが、正しくは10月号が「第19回」、11月号が「第20回」の誤りでした。訂正してお詫びします。

問い合わせ 文化課 内線 6214・6217

てだっ子 STUDIO スタジオ



100日♡おさるさん♡
ながやま そうし 永山 葵士ちゃん(0歳) 大平在



プロ野球選手になるぞ!
まねしろ とく 真栄城 徳ちゃん(0歳) 安波茶在



長男坊! たくましく育て!
よしなが ゆうせい 吉長 佑晟ちゃん(0歳) 大平在

「てだっ子STUDIO」写真募集
●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。窓口へ直接提出も可。集合写真は不可。
※被写体の子どもの氏名(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)一言コメントの記入を忘れずに!
〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1 浦添市役所 国際交流課 ☎(876) 1234 (内線2613・2614) E-mail:kokusai@city.urasoe.lg.jp